

仲代金属(東京都足立区、安中茂社長、03・3605・7730)と東京電機大学、ピーエス特機(埼玉県熊谷市、鹿間秀彦社長、048・501・1061)は、共同で金属線材の断面を正方形にした四角線コイルを開発する。2020年内に試作品の完成を目指す。四角線コイルは丸線と比べ、占積率が約30%向上し、モーターの小型化などへの活用が期待される。実用化に向け、東京電機大の絶縁性ダイヤモン

四角線コイル開発

仲代金属など20年めど試作品

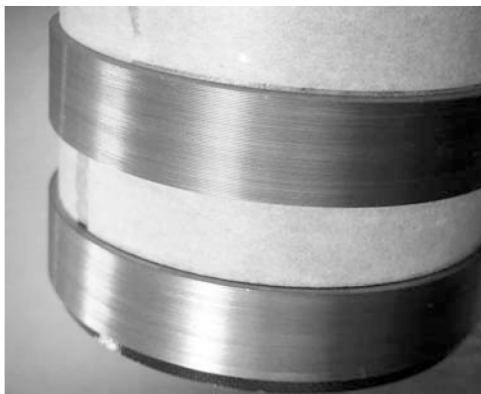
ドライカーボン(DLC)コーティングを

採用する。ドライカーボン(DLC)のコーティングに使用するエナメルと比べ、熱伝導率がエナメルの約10倍優れる。また耐摩耗性がある。また耐摩耗性がある。また耐摩耗性がある。

条件によつて最大100倍の薄さになる。また耐摩耗性がある。また耐摩耗性がある。

仲代金属はスリット加工による最小0.1mm四方の四角線コイルの製造技術を開発。しかし技術の実用化には断面形状に沿い、占積率に影響のないほど薄い皮膜が必要だった。

東京電機大が研究するDLCは、従来銅線



仲代金属はスリット加工による最小0.1mm四方の四角線コイルの製造技術を開発。しかし技術の実用化には断面形状に沿い、占積率に影響のないほど薄い皮膜が必要だった。

仲代金属はスリット加工による最小0.1mm四方の四角線コイルの製造技術を開発。しかし技術の実用化には断面形状に沿い、占積率に影響のないほど薄い皮膜が必要だった。

仲代金属はスリット加工による最小0.1mm四方の四角線コイルの製造技術を開発。しかし技術の実用化には断面形状に沿い、占積率に影響のないほど薄い皮膜が必要だった。